

平成29年度第2回市政モニターアンケート結果

テーマ「防災意識について」

- (1) 対象 市政モニター 149人
(2) 回答者数 140人
(3) 実施期間 平成29年10月13日から10月31日まで
(4) 目的 相模原市では、地震などの災害発生時に迅速な対応ができるよう相模原市地域防災計画を策定し、防災対策の推進を図っています。今回の調査は、相模原市にお住いの皆様の防災に対する課題やご意見などをお伺いし、今後の本市の防災・減災対策を推進する上での基礎資料として活用するため、アンケートにご協力いただきました。

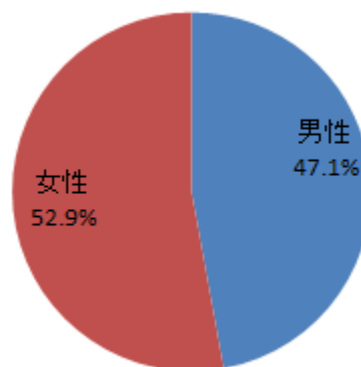
表、グラフ内の数字は回答者数を基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

【基本的項目についてお伺いします。】

問1 あなたの性別をお伺いします。(回答は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

選択肢	回答数	回答分布
男性	66	47.1%
女性	74	52.9%
計	140	100%



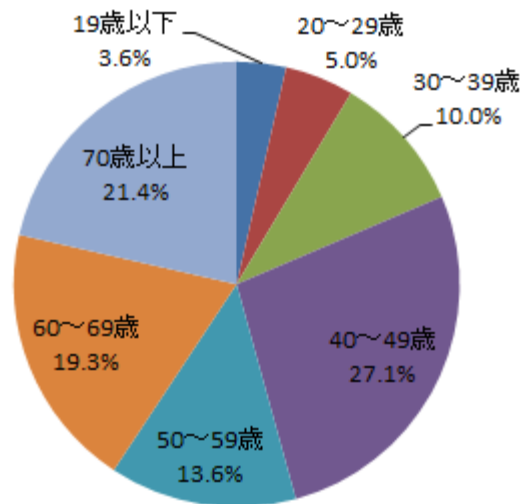
n=140

回答された方の性別は以上のとおりです。

問2 あなたの年齢をお伺いします。(回答は1つ)

1	19歳以下	4	40～49歳	7	70歳以上
2	20～29歳	5	50～59歳		
3	30～39歳	6	60～69歳		

選択肢	回答数	回答分布
19歳以下	5	3.6%
20～29歳	7	5.0%
30～39歳	14	10.0%
40～49歳	38	27.1%
50～59歳	19	13.6%
60～69歳	27	19.3%
70歳以上	30	21.4%
計	140	100.0%

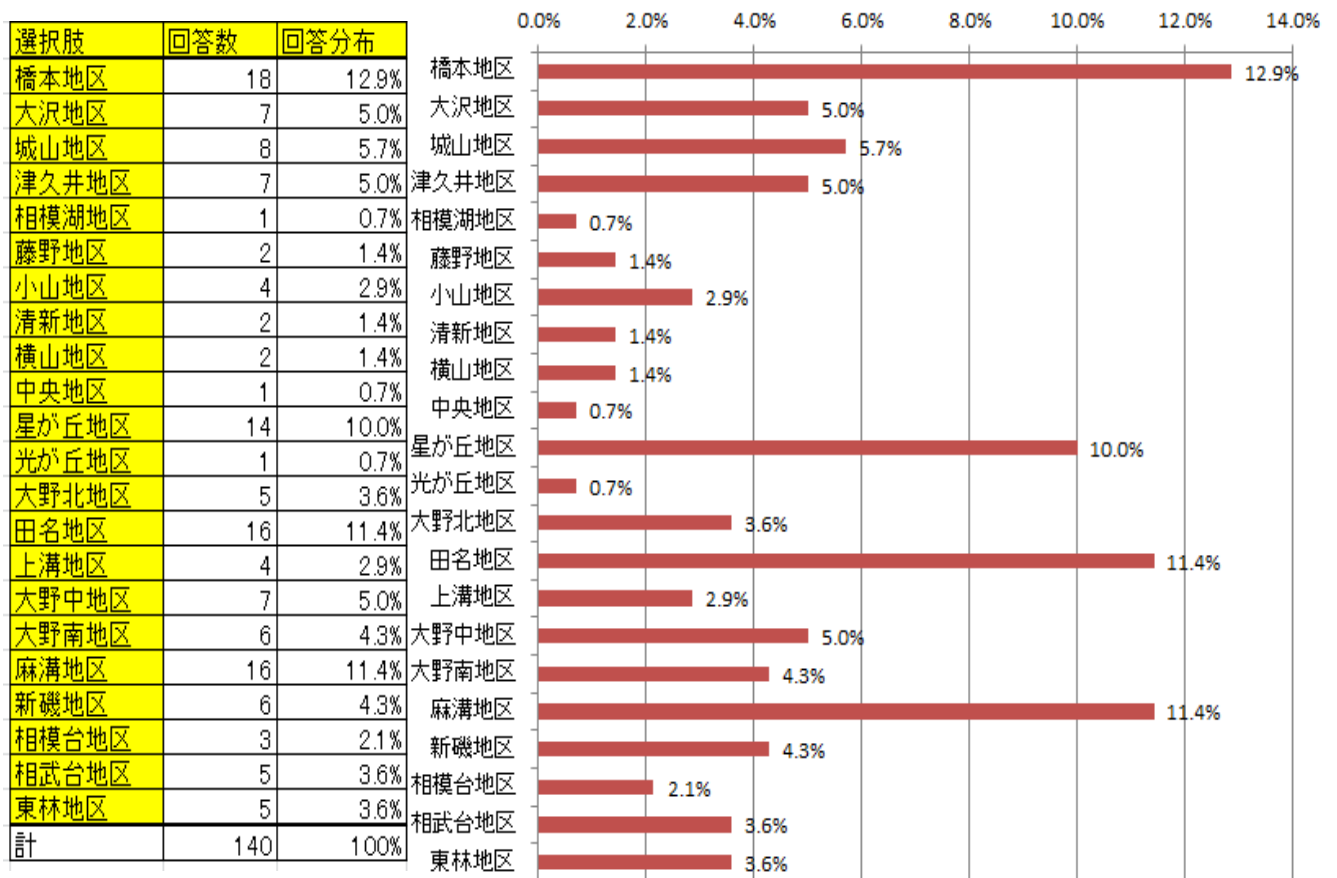


n=140

回答された方の年齢層は以上のとおりです。

問3 あなたのお住まいの地区をお伺いします。(回答は1つ)

1 橋本地区	7 小山地区	13 大野北地区	19 新磯地区
2 大沢地区	8 清新地区	14 田名地区	20 相模台地区
3 城山地区	9 横山地区	15 上溝地区	21 相武台地区
4 津久井地区	10 中央地区	16 大野中地区	22 東林地区
5 相模湖地区	11 星が丘地区	17 大野南地区	
6 藤野地区	12 光が丘地区	18 麻溝地区	



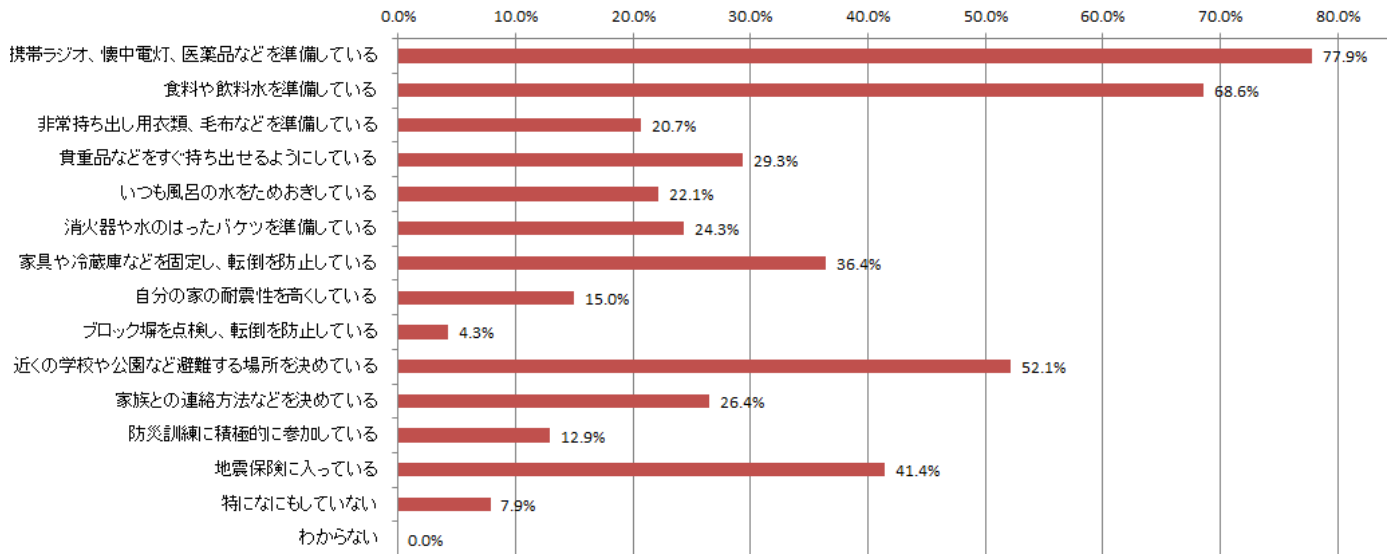
回答された方のお住まいの地区は以上のとおりです。

問4 あなたの家では、地震等の災害に備えてどのような対策を行っていますか。

(回答はいくつでも)

- 1 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している
- 2 食料や飲料水を準備している
- 3 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している
- 4 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている
- 5 いつも風呂の水をためおきしている
- 6 消火器や水のはったバケツを準備している
- 7 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している
- 8 自分の家の耐震性を高くしている
- 9 ブロック塀を点検し、転倒を防止している
- 10 近くの学校や公園など避難する場所を決めている
- 11 家族との連絡方法などを決めている
- 12 防災訓練に積極的に参加している
- 13 地震保険に入っている
- 14 特になにもしていない
- 15 わからない

選択肢	回答数	回答分布
携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	109	77.9%
食料や飲料水を準備している	96	68.6%
非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	29	20.7%
貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	41	29.3%
いつも風呂の水をためおきしている	31	22.1%
消火器や水のはったバケツを準備している	34	24.3%
家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	51	36.4%
自分の家の耐震性を高くしている	21	15.0%
ブロック塀を点検し、転倒を防止している	6	4.3%
近くの学校や公園など避難する場所を決めている	73	52.1%
家族との連絡方法などを決めている	37	26.4%
防災訓練に積極的に参加している	18	12.9%
地震保険に入っている	58	41.4%
特になにもしていない	11	7.9%
わからない	0	0.0%



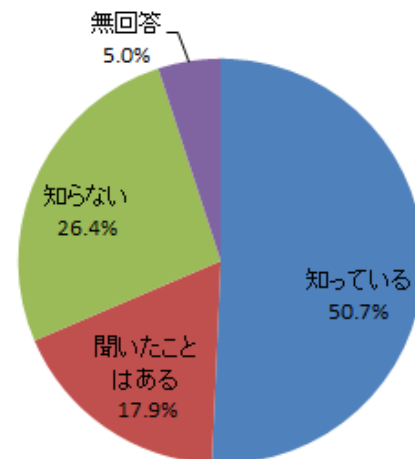
n=140

「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が最も多く77.9%、次いで「食料や飲料水を準備している」が68.6%、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」が52.1%という結果となりました。

**問5 - 1 あなたは、平成28年3月に全世界に配布された防災ガイドブックを知っていますか。
(回答は1つ)**

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	71	50.7%
聞いたことはある	25	17.9%
知らない	37	26.4%
無回答	7	5.0%
計	140	100.0%



「知っている」が50.7%という結果となりました。

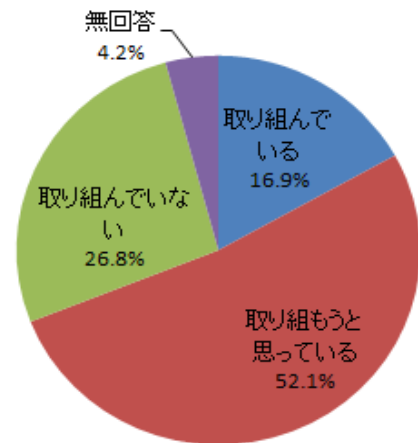
n=140

--> 《問5 - 1で、「1 知っている」とお答えの方へ》

問5 - 2 あなたは、平成28年3月に全世帯に配布された防災ガイドブックを読んで何か取り組んでいますか。（回答は1つ）

- 1 取り組んでいる
- 2 取り組もうと思っている
- 3 取り組んでいない

選択肢	回答数	回答分布
取り組んでいる	12	16.9%
取り組もうと思っている	37	52.1%
取り組んでいない	19	26.8%
無回答	3	4.2%
計	71	100.0%



n=71

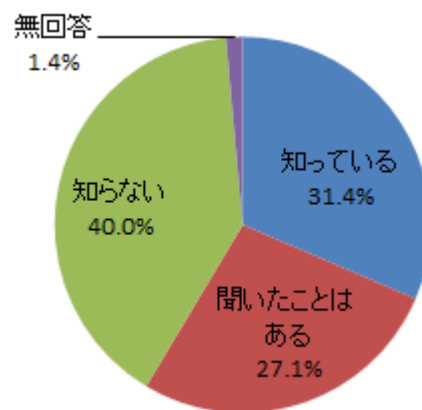
「取り組もうと思っている」が、52.1%という結果となりました。

【避難情報の認知度について】

問6 あなたは、要援護者等、特に避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況で市が発令する「避難準備・高齢者等避難開始」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	44	31.4%
聞いたことはある	38	27.1%
知らない	56	40.0%
無回答	2	1.4%
計	140	100.0%



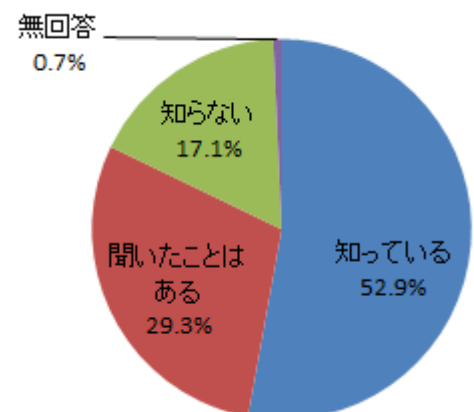
「知っている」が、31.4%という結果となりました。

n=140

問7 あなたは、通常の避難ができる方が避難を始めなければならない段階であり、被害の発生する可能性が明らかに高まった状況で市が発令する「避難勧告」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	74	52.9%
聞いたことはある	41	29.3%
知らない	24	17.1%
無回答	1	0.7%
計	140	100.0%



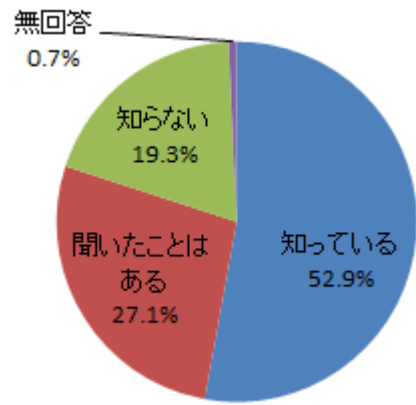
「知っている」が、52.9%という結果となりました。

n=140

問8 あなたは、災害が発生しそうな兆候や現在の切迫した状況から、被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況で市が発令する「避難指示（緊急）」を知っていますか。（回答は1つ）

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	74	52.9%
聞いたことはある	38	27.1%
知らない	27	19.3%
無回答	1	1%
計	140	100.0%



「知っている」が、52.9%という結果となりました。

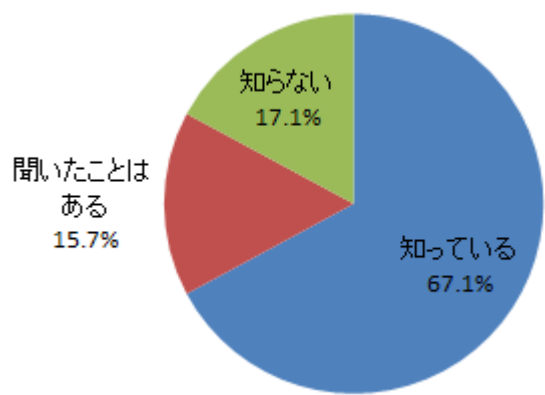
n=140

【避難場所、避難所の認知度について】

問9 あなたは、地震により火災や建物の倒壊等が発生した場合、一時的に様子を見るための場所として、地域の自治会が選定している「一時避難場所」を知っていますか。（回答は1つ）

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	94	67.1%
聞いたことはある	22	15.7%
知らない	24	17.1%
計	140	100.0%



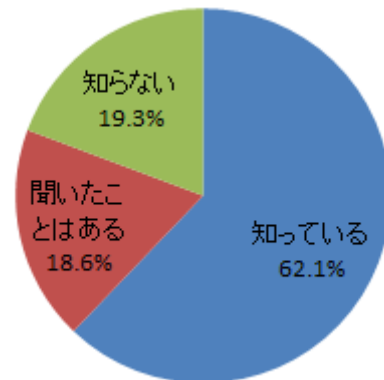
「知っている」が、67.1%という結果となりました。

n=140

問10 あなたは、地震により同時に多くの火災が発生し燃え広がった場合、火煙やふく射熱から身を守る場所として、市が指定している「広域避難場所」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	87	62.1%
聞いたことはある	26	18.6%
知らない	27	19.3%
計	140	100.0%



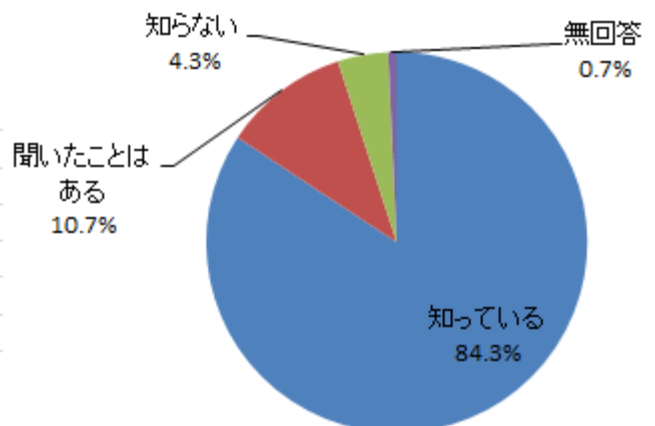
n=140

「知っている」が、62.1%という結果となりました。

問11 あなたは、災害発生時、被災した人を受け入れるために小・中学校などが避難所となっていることを知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	118	84.3%
聞いたことはある	15	10.7%
知らない	6	4.3%
無回答	1	0.7%
計	140	100.0%



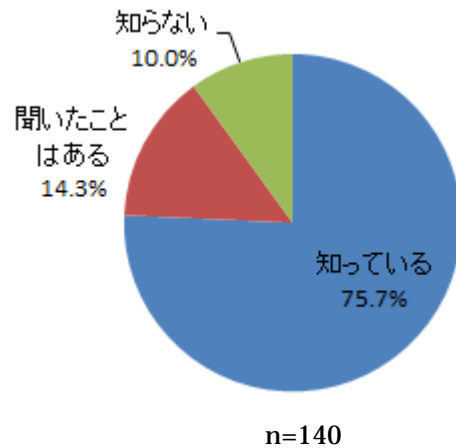
n=140

「知っている」が、84.3%という結果となりました。

問 1 2 あなたは、洪水や土砂災害の時の避難場所として小・中学校などが風水害時避難場所となっていることを知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	106	75.7%
聞いたことはある	20	14.3%
知らない	14	10.0%
計	140	100.0%

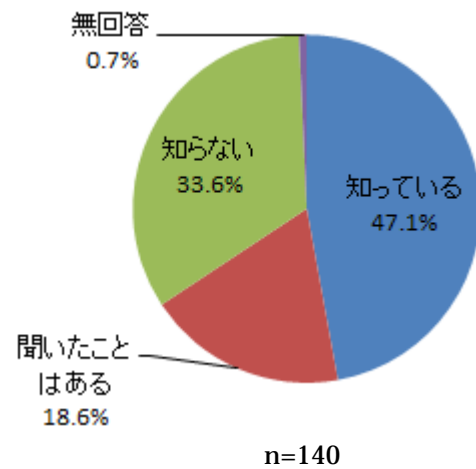


「知っている」が、75.7%という結果となりました。

問 1 3 あなたは、日常生活で使用する水や食料を多めに備蓄しておき、消費したら補充するという「ローリングストック」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	66	47.1%
聞いたことはある	26	18.6%
知らない	47	33.6%
無回答	1	0.7%
計	140	100%

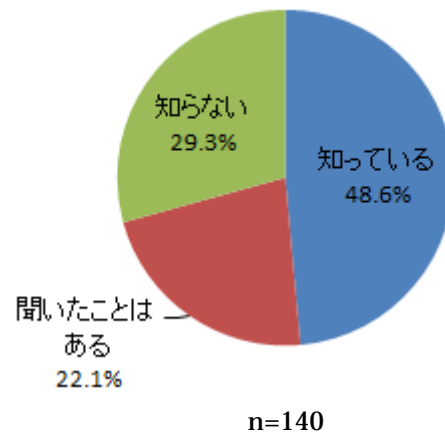


「知っている」が、47.1%という結果となりました。

問14 あなたは、災害時に停電が発生し、停電が復旧した時に発生する火災「通電火災」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	68	48.6%
聞いたことはある	31	22.1%
知らない	41	29.3%
計	140	100.0%

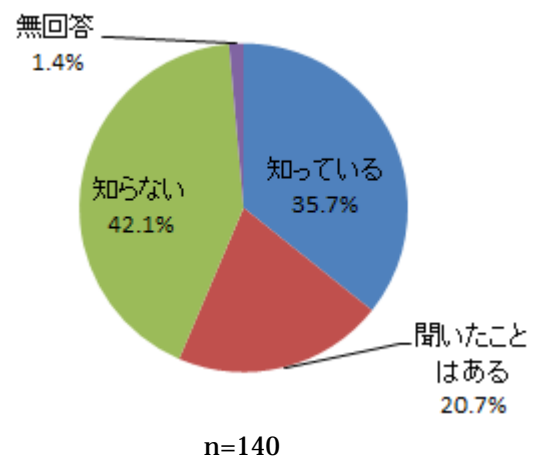


「知っている」が、48.6%という結果となりました。

問15-1 あなたは、地震の強い揺れにより自動的に電気の供給を遮断し、通電時の出火を防止することができる「感震ブレーカー」を知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

選択肢	回答数	回答分布
知っている	50	35.7%
聞いたことはある	29	20.7%
知らない	59	42.1%
無回答	2	1.4%
計	140	100.0%



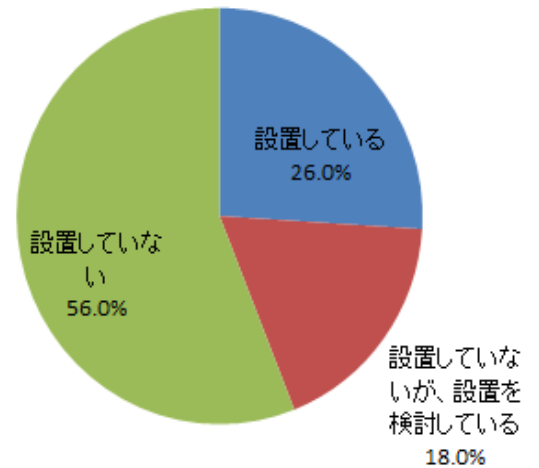
「知っている」が、35.7%という結果となりました。

《問15 - 1で、「1 知っている」とお答えの方へ》

問15 - 2 あなたは「感震ブレーカー」を設置していますか。(回答は1つ)

- 1 設置している
- 2 設置していないが、設置を検討している
- 3 設置していない

選択肢	回答数	回答分布
設置している	13	26.0%
設置していないが、設置を検討している	9	18.0%
設置していない	28	56.0%
計	50	100.0%

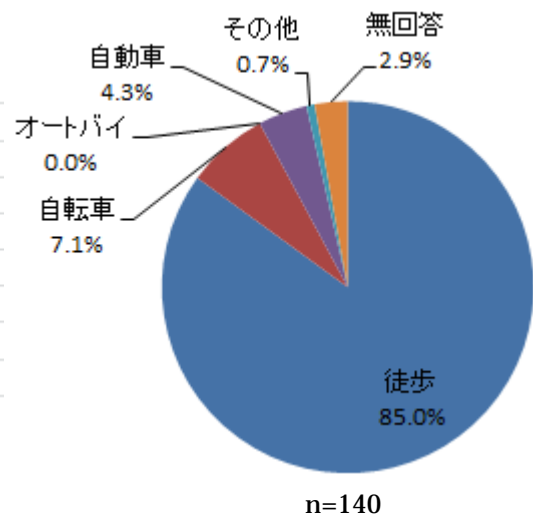


「設置している」が、26.0%という結果となりました。

問16 あなたは、災害時に、どのような手段で避難しますか。(回答は1つ)

- 1 徒歩
- 2 自転車
- 3 オートバイ
- 4 自動車
- 5 その他()

選択肢	回答数	回答分布
徒歩	119	85.0%
自転車	10	7.1%
オートバイ	0	0.0%
自動車	6	4.3%
その他	1	0.7%
無回答	4	2.9%
計	140	100.0%

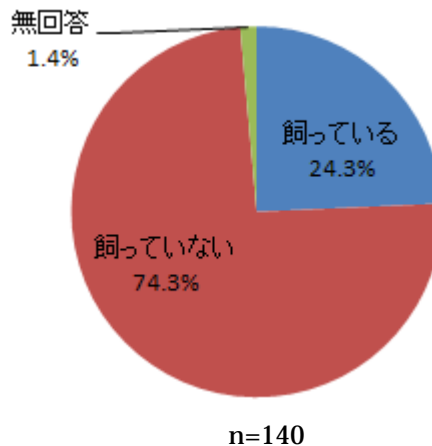


「徒歩」が、85.0%という結果となりました。

問17-1 あなたは、ペットを飼っていますか。(回答は1つ)

- 1 飼っている
- 2 飼っていない

選択肢	回答数	回答分布
飼っている	34	24.3%
飼っていない	104	74.3%
無回答	2	1.4%
計	140	100.0%



「飼っている」が、24.3%という結果となりました。

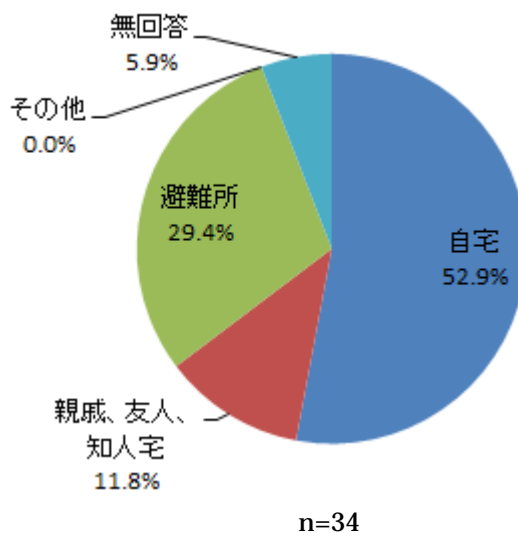
《問17-1で、「1 飼っている」とお答えの方へ》

問17-2 あなたは、災害時の避難生活で、ペットをどこで生活させる予定ですか。

(回答は1つ)

- 1 自宅
- 2 親戚、友人、知人宅
- 3 避難所
- 4 その他

選択肢	回答数	回答分布
自宅	18	52.9%
親戚、友人、知人宅	4	11.8%
避難所	10	29.4%
その他	0	0.0%
無回答	2	5.9%
計	34	100.0%



「自宅」が、52.9%という結果となりました。

問 18 最後に防災に関してのご意見などございましたらご自由にご記入ください。

情報提供等について

<p>・避難情報について知らない事が多過ぎる気がしました。在宅でもそれらの情報が入手できるといいですね（例えばパンフレット配布とか、メディアによらない方法で）。</p>
<p>・避難情報の種類について全く知識がありませんでした。防災ガイドブックはありますが冊子になっていて、情報量がとても多いです。必要な情報をコンパクトにまとめて家の壁に常時貼っておけるサイズのものがあれば便利かと思います（A4 か A3）。我が家では棚にしまっていました。スマートフォンでは緊急の場合アラームが鳴ってすぐに認知できますが、年配の方などはスピーカーからの「ひばり放送」が頼りです。家によっては声が割れて聞き難いということもあるようです。どの家にも確実に聞こえているか等の検証も必要かと思います。我が家はスピーカーの高さにマンションの部屋がある為、非常に明瞭に聞こえます。</p>
<p>・台風 21 号が来たときに、相模原市からメールをたくさんいただいてとても安心しました。今回の台風で、何度も携帯電話から大きなアラームが鳴りました。夫や子どもはうるさがっていましたが、私は台風に対する警戒感が強まってとても効果があったなと思いました。</p>
<p>・過去の被災を見た時、SNS 等のインターネットを使った被災者からの情報提供が効果を上げていたと思います。被災状況をダイナミックに収集するツール、収集した情報の利用方法についても防災計画で検討していただきたいと思います。</p>
<p>・日頃「ひばり放送」を唯一の指導指示と心得、深謝しながら毎日の生活を安心して送っています。今後もタイミング良く的確に放送を行ってくださることを願っています。</p>
<p>・私の家族は、先日の河川の氾濫、洪水、避難の指示は、携帯の緊急速報メールが入ったので分かりましたが、ひばり放送もあったのでしょうか？雨の音が強く、全然聞こえませんでした。情報が入らない分からない世帯もあったのではないのでしょうか？伝える事という事は難しいですね。また、相模原市も広域なので、例えば緑区とか、この地域にお住まいの方は、とかの表現でないと自分の地域はどうなのかが分からない方もいらっしゃると思います。</p>
<p>・「避難勧告」と「避難指示」という言葉が似ている為に混同してしまう。また、防災無線が家の中に居ると聞きづらいことがある。日頃から近所の方とのコミュニケーションをとって何かあった時には協力できる関係でありたい。</p>
<p>・ひばり放送以外にもメールで連絡が届き、防災時に安心できるようになりました。相模原市も防災アプリがあるといいなと思います。ゴミ分別アプリがすでにあるので。</p>
<p>・先日の台風 21 号で「緊急速報」の機能性、そしてそれを同時に「ひばり放送」でも流してくれることで防災に対する安心感を覚えた。ただ、「避難勧告」や「避難準備・高齢者等避難開始」が解除された時も、発令された時と同じ通知音を携帯電話で通知するのはやめてほしいと思った。緊張感の走る音なので解除の際は音を変えるか何かしてほしいと感じた。</p>

避難について

・何処の市町村でも避難勧告や避難指示を出すのを見ていると疑問に思う事がある。大雨が降れば川は氾濫し、山や崖は崩れるのは自明の事だから、勧告や指示に頼るのではなく、自分の身は自分で守る事をもっと啓蒙する活動をすればよいと思う。

・「一時避難場所」と「広域避難場所」と「避難所」の区別がつきにくい…。このアンケートが来たので見直す機会となりました。先日、起震車（地震を疑似体験できる振動装置を搭載した自動車）に乗ったのですが、震度6と7とでは大きな差があると感じました。また一昔前は「まず火を止める」「机の下にもぐる」と教わりましたが、今は「揺れがおさまってから火を止める」「（固定されていない）机の下では危険なこともあるので身を低くして頭を守る」と教わりました。自分の身を守る事なので、教えていただいてよかったです、やっぱり防災訓練は大事ですね。

・どこかで地震が起こるたびにきちんとした準備をしなければいけないと思っていますが、自分の中でまだ切迫感が足りないと感じます。避難その他、具体的に準備をまとめる必要性を今回のこのアンケートで考えました。ありがとうございました。

・水郷田名地区は一時・広域避難場所共に坂上で、高齢者が行くのに困難であり、代替場所が必要。地区が防災に関し、もっと積極的に動く、動ける仕組み作りが大切。地区の防災意欲が高まらなければ、防災の成果は上がらない。

・マンションなので、火災以外はとりあえず大丈夫かと思っています。この考えは甘いのでしょうか。

・一時避難所は、決めている近くの小学校があるのですが、広域避難場所は、どのあたりなのか意識していませんでした。今一度広域避難場所を確認しました。できれば回覧板等で地区ごとの一時避難場所と広域避難場所の確認が一目でわかる表などでお知らせが欲しいです。

備蓄等災害への備えについて

・東日本大震災を経験した後は、しばらくの間いろいろと家の中で震災対策をしてきました。しかし今では対策意識が薄れ、以前ほどではなくなりました。でも、地震に対する警戒は忘れてはいません。上から落ちてくる様な物の置き方はしない 最低3日間の水、食料を蓄える 家族の連絡方法の確立 家族の各々が逃げる際に持っていく物を一つ定めるといった対策を行っています。

・「災害」は、自然が起こすものであれ、人間社会によって引き起こされるものであれ、いつなんどき起きるか解らないのが全てです。普段から人々の頭の中に自然と避難のルートがしみ込んでいる事が大切だと思います。大きな公園の出入り口などには、災害時の避難場所である事を示す看板などを見かけますが、多くの人々が入り訪れる公民館やまちづくりセンター等へも文字や色彩・大きさなどを工夫して、お金が掛らず効果のある”防災”用の看板を設置したらどうかと思います。

・9月から防災の本を読み、必要なものを集めたりしている途中です。食料品の期限もあるので、年に2回（9月と3月に）点検しようと考えています。あじさい（高齢者）大学で、防災科目の授業もあれば良いと思います。防災グッズやパーティーションの作り方等を教える防災科目の授業もあればよいと思います。

<p>・情報はいろいろと入ってくるが、特に何もしていない。身近な事、実際家のどのあたりに何を置いておけば良いかがよく分からない。ちょっとした事、例えば玄関先に持出袋を置く(最低限入れた方がよいもの)など書いたパンフレットなどあれば良い。必要な物が多すぎて、置く場所がなくて諦めてしまう。</p>
<p>・災害に備えて対策をと思いながら、何もしていませんでした。危機感をもって備えようと反省できてアンケートに感謝致します。</p>
<p>・災害はいつどのように起こるか分かりません。自分が在宅時かもしれないし外出中かもしれない。あらゆる場面を想定して準備しておくことが必要だと思います。</p> <p>防災用品は、専用の物を買う他に家で代用できる物もあります。買って安心するのではなく、それを使いこなすことも生き延びる秘訣ではないかと思いました。子どもの学校は全校生徒が3日間学校に泊まれる分の食料や物品を備えてあります。災害時は無理に帰宅せず学校に戻れる距離なら戻って交通機関の復旧を待つよう伝えてあります。日頃から災害に備えて、物や心の準備をすることが安心につながると思います。</p>
<p>・多少の食糧や飲み水の備蓄はしていますが、そうたくさんものを備蓄する場所がありません。3日分が限界です。都心が被害に遭い、人口が多い相模原市で、早急に物資が届くのかどうか不安があります。地震保険には加入していますが、すぐに支払われるわけではないと思うので、当面の生活費も必要だと思っていますが、それがどのくらい備えていたらよいのか疑問です。災害時、おつりが出ないなどの問題があると聞いたことがあるので、1000円札とたくさんの小銭は常に用意しています。</p>

防災訓練について

<p>・積極的に自治会が主催する訓練に参加しなければ、いざという時に自分が困ることを分かっているが、普段あまり参加していないことを反省している。情報に身体が反応するようにしなければならぬことは分かっているのに訓練にあまり参加していない。反省ばかりである。</p>
<p>・防災訓練などをできるだけ多く実施してほしい。</p>
<p>・他の自治体では、ペットを飼っている人達に具体的な内容の対処法やペット同伴の避難訓練があると聞きました。いざという時に、他の人に迷惑をかけないように、教えていただきたいと思っています。また、家族に人工透析をしている者がおります。緊急用の薬や手帳など用意していますが、やはり不安は大きいです。</p>
<p>当市は一部を除いて、地震・水害・土砂災害などの危険性が低い地域と思います。従って、いつどの程度の災害になるのかはつきりしませんが、次の災害に対する知識と心づもりを市民へ事前に伝え、避難訓練を含めた準備が必要と思います。</p> <p>(1) 北朝鮮からのミサイル攻撃時対策 (2) 富士山の噴火時の粉じん対策</p>
<p>・あり得ないとの思いでいた時期もありましたが、今日では、いつ災害が発生してもおかしくない状況を感じています。居住区の自治会でも行事に合わせ、かねてから「避難・消火器」等の演習を行っていますが、更に実施頻度を上げるとともに、行政主催の大規模地域防災の「防災の日」以外の実施とその広報活動での目及び耳からの意識浸透拡大を図るべきだと思います。</p>

その他

<p>・1.一般論が多すぎる。当市の災害リスク評価を公表し、各地域ではどうすべきかというアナウンスを望みます。 2.当市に住んで50年、人災を伴う自然災害を聞いた事がない。 関心が薄いです。</p>
<p>・「さがみはら防災ガイドブック」を保管はしてありましたが、中味を読んでいませんでした。この機会に確認することができました。できることから実践していきたいと思います。</p>
<p>・今まで災害等で被害がなかったので特に意識した事はありませんでした。家では何かしらの準備をしている様ですが、自分で把握はしていません。本当に自分が被害に遭うまでは防災等に意識はできない様に思いました。</p>
<p>・去年の夏の大雨の時に、近くの境川が氾濫寸前まで水位が上がりました。また、川とは逆の方向から、雨水が道路を川のように流れていて、川沿いの自宅の玄関の階段4段の内1段目まで、だいたいひざ下位まで水が溜まりました。あわや家の中まで浸水する所でした。川が一番低い位置になる為、横浜線の線路から境川に向かって緩い下り坂が続いています。そこに降った雨水が全部流れてきて排水機能が間に合いません。川に流れ込んでくれたら良いのですが、直接川には流れません。境川も川の流れを直線化する為のクイは打たれていますが、いつ実現するのか分かりません。排水対策と境川の工事を早目に進めていただきたいです。</p>
<p>・天災なので、無いことを願っているが、万一の場合は自分なりにできるだけ最低限の然るべき対応をする覚悟でいる。</p>
<p>・災害に最も必要なことは、向こう3軒両隣といわれる様に、災害時だけではなく日頃から自治会等を通して対話と交流ができる環境だと思っています。</p>
<p>・まず自分を守る行動、次に家族、その次に近隣の人を守る行動を常に考えて生活すること。実際に災害にあわれた方々の各々のその時の実話を広く聞かせていただき、参考とすべき(机上の事柄でなく)。</p>
<p>・大きい災害は起きないだろうと甘くみている部分があるので、これを機会にいろいろなことを考える必要があると思いました。</p>
<p>・防災に関しては、近所、地域の方々との連携が非常に大切だと思います。そのためには、自治会に入会し、常に地域の方々とのコミュニケーションが大切です。</p>
<p>・基本は自助、日頃の関連で「共助」、行政はその関連を支援する。行政しかできない必須事項を明確にして、周知することも大切だと思います。行政に対する過剰な期待を与えると、自助・共助の意識が薄れるのが怖い。また行政間で差異があることも危険だと思います。</p>
<p>・このアンケートを通して自分がいかに災害対策を知らないかがわかったので今後を活用したいです。</p>